

觀海童詩

「雲峰山摩崖刻石」の一

永平四年(511)頃
(北魏時代)

雄大な摩崖刻石⑥

木
糸

木雞室

伊藤 滋

① 「論經書詩」



④ 「山門題字」



② 「鄭羲下碑」



⑤ 「遊弊題字」



③ 「上遊下息題字」



鄭道昭は、北魏体の楷書の始祖と認められ、南朝の王羲之と並び、北朝の書聖とも称されている。明治前期に来日した楊守敬が、曰下部鳴鶴らに鄭道昭の書を紹介したのがその始まりであろうか。それ以後、日本の書道界では、戦前戦後を通して、よく学ばれる楷書の古典である。『雲峰山刻石』とは、雲峰山を中心とした太基山、天柱山等の山に散在する摩崖刻石の総称であり、鄭道昭（455～516）

色ある書風を示している。

次回は、『雲峰山摩崖刻石』②「論經書詩」です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

の書とされる「鄭羲下碑」「論經書詩」を始めとする大型の摩崖碑から小さな題字摩崖刻石まで五十種近くを含む。また息子である鄭述祖の書やその周辺の摩崖刻石も網羅されている。今回は、「觀海童詩」の中から「騰龍」の二字を主図版として示した。まるで軽く飛び上がるような構成の「騰」字、力を中心にため込んだようなやや捻った結構の「龍」字、今にも飛翔せんばかりの趣を観ることはできないであろうか。今年の干支に因んで年頭の吉語とした。参考図版2には、代表的な「雲峰山刻石」の中から「鄭道昭」の三字を集めた。各刻石の特



書道芸術院

平成の群像 (2011)

「憑」による



金井如水



この10月山本聿水生誕百年記念・白玄会創立60年書展として地元高崎で山本家、高崎市及び会員の力と皆様のご支援により開催出来ましたこと感謝いたします。先生の作品を見るたび新しい作品にお目に掛かっているような気がしています。そして今、自分がこれまで書に携わって来たこの見識、学識の浅さを恥じ入っています。今になってあの時もっと細かいことを指導受けなければと書をやるにつけて何時も大きな壁にぶつかっていて作品に気持ちが現れていない状態なのです。思えば、先生の言葉の中で「造形の発想は、古典をそのまま表現するのではなく、文字

を読むものでもなく象として把握し、一個人の人間を通して感ずる世界に新たな自分の字を創造表現をし、そして、前衛書の精神は、美しいものを求める心、未知のものを知りたいという願う心、その考え方から文字性の書から脱皮した新しい書に挑戦し、筆で書かれた書の特異な美しさを見出し、鑑賞（視覚芸術）の対象としての書を求めるものである。「書だか、絵だかわからぬるもの、文字を書かないものなどと誤った考え方が横行している今、前衛書に取り組む人は絶えず前衛的精神を持つていなければならない、即ち「道なき道を切り開くものである宿命なのだ」と思っています。前衛書には、手本を示すと模倣を奨励する形に捕らわれてしまい、前衛書精神に反するものと思うし、又もう一度話しに戻すと色々な技法、発想がありますが、一番大切なのは、前衛書であっても書としての線が大切である、その線を書けるようになるためには、常日頃からの古典の臨書を学んで勉強して行かなければならぬのでは、これから先どのようにしていくかはわかりませんが、筆を持って書けるところまで常にレジスタンス精神を持ち続けて行きたいと思ってい

ひたむきにひとつのことをおしすすめいきなばよろしいきつかずとも（大澤雅休歌集より）

壬辰の歳を迎えて

頌

春

明けましておめでとうございます。

昨年は正に天変地異の歳がありました。

3・11東日本大震災の傷跡はまだ癒えません。一日も早い復旧、復興を願う心は皆同じであると思います。昨年実現しなかった書道芸術院東日本展は、誠に残念でありましたが、被災された方々への義援金活動など、多くの方々のご協力をいただき、書道芸術院の皆様の力の結集は見事でありました。深く感謝申し上げます。

本年は院創立65周年を迎える記念展の歳であります。全国巡回展、65年史の編集発行など記念行事も規模縮小ながらしっかりと実行して参りたいと思います。皆様のご支援、ご協力を切にお願いします。

平成24年元旦

財団法人書道芸術院理事長 辻元大雲

役員一同



書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第65回記念書道芸術院展
全審査終了 出品数微減に留まる

今回展も都美改修中のため一般公募から審査会員まで全作品を未表装で11月末搬入受付、出品総数3462点、一般公募1-13点、無鑑査1-60点、審査以上129点で東日本大震災の影響が心配されたが、今年の毎日書道展同様、微減に留まることは会員諸氏のご努力の結果であり、深く感謝申し上げたい。特に被害甚大な東北方面の皆様の院展にかける熱意にはただただ頭の下がることで、重く受け止めねばならないことである。

記念展ということで無鑑査以上に記念賞が贈られることになり、入賞数は増加した。審査会は12月10・11・12日の3日間、資格ごとに行われ、事務所近くの東京文具共和会館を会場に、特別賞選考委員（峰雲賞8名、審査会員候補選考15名）、無鑑査33名、一般公募33名、審査事務約80名体制で厳正な審査会員に対する賞、峰雲賞選考は最終日に選考委員8名により行われ、記念賞5名と併せ選考した。峰雲賞は漢字部、大阪の飯田春香さんに決定。

記念賞は各部通して5名であるが選考の結果、各部より1名が選考された。

第65回展記念賞

漢字部 小浜大明、かな部 奥田瑞舟 前衛書部 大平邑峰、篆刻部 加藤如石

現詩部 大平邑峰、篆刻部 加藤如石

以上のは6名は本年の秋季展推薦作家としてアートサロン毎日にて作品発表していただくことになった。また、峰雲賞候補作家90名の内約半数の方をA候補として財団役員（参考以上）以外の秋季展選抜メンバーに選考した。後日秋季展品のご案内をお送りする予定である。あらかじめご承知おき頂きた

* 作品研究会 平成24年2月11日（土） 13時30分～ 帝国ホテル富士の間
* 表彰式 同日 14時30分～ 同右
* 物故者慰靈祭 同日 16時～ 同右
* 祝賀会 同日 17時30分～ 同孔雀の間

毎日書道会理事会開催
浜谷芳仙先生参与会員へ推举
去る12月8日、財団法人毎日書道会の定例評議員会、理事会が開催され第64回毎日書道展主要人事の事業計画が決まった。

* 第64回毎日書道展主要人事
実行委員長 中原茅秋
審查部長 林竹聲
総務部長 中原志軒
陳列部長 永守蒼穹
運営委員（院関係）

大字書部 小浜大明
漢字部 最首翠風
前衛書部 津田海仙
各展実行委員（院関係）
東北仙台展 千葉蒼玄
関西展 小伏小扇

* 東京展は国立新美術館と東京都美術館全館を使用する。
国立新美術館 審査会員（全期）
会員全作品（前後期）
入賞全作品（前後期）
東京展会友作品（4期陳列替え）
特別展示 熊谷恒子の世界
東京都美術館 理事2点目作品
東京展関係入選作品（U23含む）
国際高校生選拔書展上位入賞作品
同 東京展管内の入賞作品

その他詳細は後日運営委員会にて決定する。

* 中央展（東京セントラル美術館）

会期 2月7日（火）～12日（日）



審査会場 峰雲賞選考前の打ち合わせ

刻字(四)

小山鳳来

漢詩や好きな文言を揮毫しそれを刻すことでき字作品は出来る。彩色をし金箔を描き美しい作品は出来る。しかしそれでいいのだろうか。

私は常常作品は上手、下手ではないと思っている。制作する者の想いが觀る側の心に響き、作者の人間性、思想生きざまが作品に生きていなければ(その様な努力の跡が見えなければ)と思う。私などの口にすることではないが、そうありたい。そう努力すべきだと日頃願っている。

作品の未熟さはあっても良いしろ悪いにしろ作者の分身であり、批判を恐

れてはならない。さらけ出し批判されこそ成長がある。私には觀る者に感動を呼び起す様な力はないが、少しでもそれに近づきたいと日頃願っている。

不純な想いから始めた私の書の道でも今となつてはそれを追い求めて行く事が生きる証である。

人はギリギリまで追いつめなければいい作品は出来ないのだ

感性は生まれ持ったものだとしても常に創り出す何かと斗う気持を忘れたら何も残らない。

創作は斗いであり自己との責め合いであり、斗うことに疲れ、氣力を失った時、その者の創作は終る。



小山鳳来書

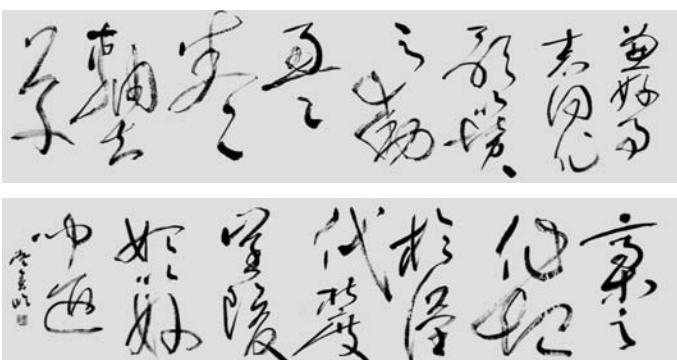
21世紀の書 —私の主張—

漢字(四)

加瀬澄春

書道の練習は毎月の競書だけでは充分、現在の多種多様化の時代に書道だけに手をあげたくない。という方もおりましょう。しかし

それでは本当の書の楽しさはわかれません。古典を臨書し学び創作



加瀬澄春書

に発展する。では古典を学ばず師の手本だけでも出来ますか? 答えはピンポン! 出来ます。

師の書風を繰り返し繰り返し練習すれば同じ様な作品が書けます。では臨書の効用は? 何の

為? 古典には正しい用筆法、多

様な書の線や技法、豊かな表現力、鑑賞力がありこれらが作品作りの土台となります。自分なりに古典と向き合い咀嚼して栄養とする、そのエキスで書く。

これが制作の基礎です。臨書を経ずして創作に入ると、兎かく自分勝手になりやすい。格調の下ったものになってしまいます。師の手本には書き手の意志があります。作品に生命を吹き込む

自分の主張を盛り込む、メッセージを入れる。白と黒の世界から文字をお借りして国語から芸術へ、高く目線を移し自分の意図を持って書き進む。そこに作品制作の楽しさがあります。自作が枯渴せぬ様臨書と創作、両方が同じ位の比重になるのがベストといわれます。とはいえた頃雑用にかまけ臨書を怠る自分にこの稿はやや滑稽でしょうか。

写真は49回白扇書道会展の出品作、懷素の自叙帖です。

一つの祖国

星野英蘭

(漢字部・審査会員)

季節の足踏みがもどかしい毎日、余震の不安を感じながら久し振りに植込みに足を入れる。紫陽花の下に、昨年株分けした春蘭が七分咲きで花をつけていた。派手さは無く、むしろ質素で愛らしい。想えば20数年前、訪中団の一員として紹興を訪れ、交流会の翌日、早朝5時一足先に会議に出席の爲帰国された扇舟先生の私室に呼ばれた。色紙に書かれた雅号を戴いた4名の中の一人に自分がいたが書歴も知識もないことの心苦しさがあったのか、団員の人達には、しばらく内緒にして、トンクの下に敷き、帰国までだまつてい記憶がある。その日の朝食は、バイキング。甘いナツメの入った全粥を興奮のためか三杯もおかわりした。紹興は蘭の群生地の多い處。地味だが品位もあり丈夫である。扇舟先生のこんな思いもあって春蘭の一字を戴いた。

戦後日本人の生活も徐々に安定はしつつも、その傷跡は治癒出来ず、いる頃、中国人も日本人への敵意が消えない時期、先生が研究の爲に自から訪中された。その探究心や情熱に敬服したが、事が起るとあと言ふ間に、蟻の



星野英蘭書

ように集合し敵、味方をサポートする民族（少女の時、そう感じた）を想うと、命の保証があつたのは、心から中國を愛し、人を大切に思う先生の御人格以外の何ものでもないと思った。今、師匠である萬城先生御家族をも研究生として勉学を薦められた親心にも、感謝させられた。日本人も中国人に対する風評は、食品公害、留学生問題等時折あつて批判するが、かつては、自分の子供同様に、育てて教育してくれた中國の人達もいた事実を忘れてはならない。

白扇会に入会して最初に見学した碑に群馬県吉井町にある多胡郡碑がある。古い墓石の裏側にある文字は眼にした事はあっても「文字を学ぶ」初めての見学体験。あまり変化もないよう見

えたが、反面大らかであった。感激もしないままに帰宅する。初めて購入した書道基本用語辞典で、その碑文が、平正で、右に左に傾斜し、大小がある事が分かり、何故か嬉しかった。

初めてのことの中の一つにこんな事もあった。29回白扇展。孔子廟堂碑の五文字。褒状を戴いた。小学生の様にはしゃぐ4才。これが早めの50才の手習いで、少しだけ解消出来た様な錯覚を起こしたのかも知れない。数年後、龍門賞を戴いた。「書の登龍門の意」扇舟先生のお言葉。この先、進んでも良い関所のような線上と理解はしたもの。大学の書道科のカリキュラムに準じて作成されている57單元もの扇筆会の基礎学習カリキュラムは、私には、遠い雲をつかむ様な難題で、進みながら目が眩んだ。鄭道昭の理解と鑑賞、臨書。地名か人名か書籍名か、暗中模索とはこの事ぞ。夢もあり希望に燃えて医療看護を学んだ20代と異なって、40代後半、クラスの一員になれた書道教室は、書道教師、書歴数十年の熟男熟女の先輩。クラスの周囲はいつも自分を緊張させてくれた。「この間はどこまで話したかな。」最前列に席を取らざるを得なかつた翠蘭さんとどきどきおどおどしながら毎回答えていた事。今は懐

かしく、新鮮な過去にもなって夢のようもある。しかし「書は努力と才能と入門時の扇舟先生のお言葉に、入門をやめようか」と思い躊躇していた三ヶ月間入門したい、勇気だけが残っていたのは若さ故である。今でもそうだが、臨書、創作がうまく行かず挫折を感じた事もあったが、退会を考えたのは、入院をした時位である。言葉少ない萬城先生の御指導の裏を読めるようになつたのは、最近の事。幸いに年下の先輩書友の叱咤激励は、薦効充分な漢方薬でもある。

訪中の際には談笑し、助け合い、時には気まずい思いもあり訪中は十数回を重ねた。姉妹の様な時もあれば、個人プレーのこの書という芸術に競い合って、フウフウしている書友も健康的で美しく見える。美しいと云えば中国の民間芸術の中に剪紙がある。1500年前以前から伝わり数量の多さなど生活環境を美化する一つの手段となつていて。

白扇会、書道芸術院の諸先生の今迄の温かい御指導を大切に、これからも末永い教えを戴きたいと願い、二つの祖国の幸わせを祈るばかりの今日この頃である。



剪紙

「振り返る」

大鹿洋江

(前衛書部・審査会員)

東関東大震災後に原稿の依頼を受けたものの何事に対しても集中できない日々が続いている。このよう時に大きな紙、多くの墨や水を使う大作はとても贅沢で申し訳なく思う。被災され不自由な生活を強いられている多数の人達の生活を想うと心が痛くなる。

しかしながら、これを機に子供の頃から始めた習字、中断はしたけれども今まで書道を続けられてきた理由を振り返ることにした。

白い紙には何でも落書きができる自由さがある。同じ白い紙でも書道用紙となると書く前に多少なりとも緊張感を覚える。そして書き終えた後にはホッと解放感が残る。新しい白い紙に書く度に何回でもそれを体感できる。どのようなものを書いても結果をすぐ見ることができる。新たに運筆することにより技術的にも精神的にも前進するきっかけとなる。

そして何よりも大切な理由は、今まで尊敬する先生方との出合いがある。

何人かの先生に師事した後に、現在の

師、村野大仙先生のご自宅にお伺いするようになった。多くの法帖をいつも真摯に勉強され、山積みに反古された紙の量に当初は驚いたものである。研鑽されているお姿を弟子達に見せるこ

とが何よりも教育なのだと後になって気づいた。

その内、いろいろな講習会や勉強会に参加させて頂くようになり、他の会

9年近く前に「村野大仙書作展」が銀座画廊・美術館で開催された。師の初個展で全て前衛書のみである。大作を眼の前にして先生の精神力の強さ、技量の高さに圧倒された。

白い空間が骨性のある線の中で最大限生きられ、品格のある作品群に感銘を受け、何度も見ても飽きなかった。

そして何よりも大切な理由は、今まで尊敬する先生方との出合いがある。



第60回記念書道芸術院展 準大賞受賞作品 大鹿洋江書

の先生方やお弟子さん達と交流するようになった。大勢の人達の中で書くことは自分で書くのとは違い、多くの熱気や影響を受ける。皆さんの書いている様子を見られることは刺激となり、先生方のご助言は次の一步を踏み出す力となっている。

前衛書を出品し始めた頃は「未知なる世界に飛び込んでしまった」と複雑な思いだった。それは「よくわからない」からである。しかしこの「わからぬ」ことが前衛書を続けてきた理由の一つかもしれない。

当時、岳門会に入門し中島邑水先生

「遺墨展」の会場のお手伝いをさせて

頂いた。邑水先生の古典への臨書にか

ける想いや書に取り組むエネルギーの

凄しさに感動した。生意気ながらピカソ

やマチスのように美術・芸術の世界か

らも国際的に評価されてもいいのではないかと思った。

私は東京近郊の住宅と畠が混在する

市に住んでいる。畠も隣りで空も広々

といろいろな形の雲が見える。夕方、

犬と農道を散歩しながら自然の変化を

感じている。このような風景も前衛書

のアイデアになることがある。

書作には今の体調や心の動きや呼吸

や技量が線性となって表われてくる。

白い空間を通して形や線で自分自身を

定着させる芸術だと思う。

余談になるが今も放送中の「NHK

スペシャル」のカタカナ文字は、前衛

書を始めた頃に悪戦苦闘した私の書い

た字である。今日も大災害関連の番組

に使われていたが、微力ながらお役に

立っていると思うと嬉しい。この文字

をご覧になつて少しでも希望がわいて

頂けたら本望である。

これから私は明るさと希望を失わ

ないように無心になつて書の道を進んでいこうと改めて思った。

とても足許にも及ばない私ですが、お稽古の時には不勉強な古典の臨書を携えて出かける。時々帰り際に「これを持って入ってもらえないかな」と

前で宛名を書かれる。実用的な芳名帳や賞状などの文字も古典で培われた線質が發揮されている。

60回記念展の時に栄えある準大賞を頂いた。受賞の喜びと同時に全文手書きの先生の賞状を頂いたことは二重の喜びであり、人生の記念すべき一ページになった。

私は東京近郊の住宅と畠が混在する市に住んでいる。畠も隣りで空も広々といろいろな形の雲が見える。夕方、犬と農道を散歩しながら自然の変化を感じている。このような風景も前衛書のアイデアになることがある。

書作には今の体調や心の動きや呼吸や技量が線性となって表われてくる。白い空間を通して形や線で自分自身を定着させる芸術だと思う。

余談になるが今も放送中の「NHK スペシャル」のカタカナ文字は、前衛書を始めた頃に悪戦苦闘した私の書いた字である。今日も大災害関連の番組に使われていたが、微力ながらお役に立つていると思うと嬉しい。この文字をご覧になつて少しでも希望がわいて頂けたら本望である。

これから私は明るさと希望を失わないように無心になつて書の道を進んでいこうと改めて思った。

書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

平成23年11月23日(水・祝)
於 上野精養軒

「日中の間（はざま）で22年」

講師 張麗玲先生

＜公開講演会＞

張麗玲先生講義

理事長 辻元大雲



辻元理事長あいさつ

本院創立記念日恒例の講演会は予定通り、上野精養軒にて200名余の会員の参加をいたぎ盛況のうちに行われた。本年の講師は毎日書道会鈴木義典総務部長のご紹介で、中国浙江省出身の株式会社大富代表取締役社長であられる、張麗玲女士にお願いした。株式会社大富はインターネットテレビを運営し、主に中國国内放送を日本など世界各国へ配信、同時翻訳、字幕放映など多彩な活動をされている。現在は日本へ帰化され、更に活動の輪を広げられている。

1998年に東京学芸大学大学院へ留学され、修了後日本の大倉商事株式会社へ



张丽玲女士在台上演讲

就職、1998年中国国家テレビを通じて日本文化交流事業を展開、日中間にわだかまる様々な状況を何とかしたいと、日本のフジテレビへドキュメンタリーシリーズの企画を持ち込み成し遂げる。「私たちの留学生活—日本での日々—」が1999年末より中國国内全土のテレビ局により放映され、大反響を巻き起こした。更にシリーズの何編かは日本のフジテレビでも放映され、再放送など大きな反響を呼んだ。中でも「小さな留学生」は5回も再放送されたという。

講演では最初の来日、留学のいきさつ、特に日本を意識したわけではなかつた、むしろアメリカへの思いが強かつたのが、日本の大学への留学や商事会

社での活動を続けるうちに、日本と中國の間に横たわる様々な問題に直面し、何とかしたい、何とかならないかとの思いから、それまで全く経験のなかつたドキュメンタリー番組の制作など、メディアの世界へ突き進む。様々な困難、無理解、感情のもつれや国民性の違いに悩ましながら、これまで活動してきた22年間の波乱の人生を熱く語られた。中国人は国家意識が強く、領土問題など国家間の高度な政治判断が求められることなどにも激しく反応するが、日本人はその意識は弱くあまり主張など強烈には示さない。穏やかな国民性はいい面もあるが、きちんと主張すべきことは意思表示することも必要ではないかななど、いろいろ考えさせられる内容であった。

ご自身の実体験からのお話は具体的で、聴く者に強く迫ってくる。派手な誇張などなく、淡淡と語られるその姿そのものに皆心打たれた講演であった。

講演終了後の恒例の懇親会にもご同席いただき、会員との和やかな交流もあり、大いに盛り上がった。懇親会は三浦鄭街事務局次長の司会で進行し、恩地会長のあいさつ、小伏竹村名誉顧問の乾杯のご発声で幕開け、各総支局よりの近況報告や書展開催のご案内など、盛会であった。

社での活動を続けるうちに、日本と中國の間に横たわる様々な問題に直面し、何とかしたい、何とかならないかとの思いから、それまで全く経験のなかつたドキュメンタリー番組の制作など、メディアの世界へ突き進む。様々な困難、無理解、感情のもつれや国民性の違いに悩まながら、これまで活動してきた22年間の波乱の人生を熱く語られた。中国人は国家意識が強く、領土問題など国家間の高度な政治判断が求められることなどにも激しく反応するが、日本人はその意識は弱くあまり主張など強烈には示さない。穏やかな国民性はいい面もあるが、きちんと主張すべきことは意思表示することも必要ではないかななど、いろいろ考えさせられる内容であった。

ご自身の実体験からのお話は具体的で、聴く者に強く迫ってくる。派手な誇張などなく、淡淡と語られるその姿そのものに皆心打たれた講演であった。

講演終了後の恒例の懇親会にもご同席いただき、会員との和やかな交流もあり、大いに盛り上がった。懇親会は三浦鄭街事務局次長の司会で進行し、恩地会長のあいさつ、小伏竹村名誉顧問の乾杯のご発声で幕開け、各総支局よりの近況報告や書展開催のご案内など、盛会であった。

西林乘宣北関東総局長あいさつ

＜懇親会＞

三浦
鄭街

創立記念日の張麗玲先生の特別公開講演会終了後、恒例の懇親会を行ないました。

懇親会は跡書道芸術院会長の恩地春洋先生のご挨拶に始まり、名譽顧問の小伏竹村先生の乾杯、とても和やかな雰囲気の中、各総局支局長の先生方から来年の行事予定、第65回記念書道芸術展巡回展の開催予定、祝賀会の予定及び展覧会等のご案内が紹介されました。北は北海道、南は九州まで書道芸術院は全国各地から集まっている事を再認識いたしました。

来年の単位認定講習会は山陰支局が担当で名越蒼竹支局長から「鳥取県湯梨浜町の羽合（はわい）温泉で8月18日㈯～19日㈰に開催するので奮ってご参加を」と案内がありました。

新年1月5日から毎日現代の書新春展、またチャリティー書展の出品者の先生方の紹介もありました。

（左）板垣洞仙南関東総局長あいさつ
（右）種谷萬城評議員書展ご案内

氣でご活躍される事をお願いし、この様な機会にまたご指導いただけると大変嬉しく思います。宜しくお願いいたします。

事務局次長として司会進行の大役を任せられ、皆様の御協力により無事終了出来ました。ありがとうございました。

懇親会の報告といたします。

新春展出品者ご紹介



株式会社 大富 代表取締役社長
張麗玲先生ご紹介

（略歴）中国浙江省生まれ。女優として北京で活躍した後、1988年米国・東京学芸大学大学院修了。同年、日本の商事会社大倉商事株式会社に就職。1988年2月、中国國家テレビ放送を通じての日中交流事業立ち上げ、CS放送会社「株式会社大富」を設立し社長に就任した。95年末から仕事の傍ら、中国人留学生の日本での生活を記録する為、4年間かけて制作したドキュメンタリー・シリーズ「私たちの留学生活～日本での日々～」が1998年末から2000年にかけて中国全土のテレビ局のゴールデンタイムで放送され、大反響を巻き起こした。このうち「小さな留学生」「若者たち」「私の太陽」は、フジテレビのゴールデンタイムで放送され、日本でも一躍「時のひと」として、2000年には、張麗玲自身がドキュメンタリーを撮影する姿を7年間追いかけて続けた記録が、日中建国30周年記念番組として、フジテレビで放送された。「中国からの贈りもの」とのタイトルで放送され、新たな話題を呼んだ。2007年10月には、日中友好の史上初となる「中国人民解放軍交響楽団日本初公演」を企画・プロデュース。また最近では、「軽部潤子原作・講談社出版の漫画『君の手がささやいている』」の中国語版ドラマ「大愛無声」（中国版）の企画・総合プロデュースを手がけ、今年10月、「中国琵琶の皇后」との誉れ高い琵琶奏者・章紅飴の来日公演を企画・プロデュースし、中国伝統音楽を通した文化交流を成功させた。（受賞）

企画・制作したドキュメンタリー「小さな留学生」が2001年6月「第27回放送文化基金賞」において「テレビドキュメンタリー賞」を受賞。併せて、監督・プロデューサーとして、「個人企画賞」もダブル受賞。また「JPPA賞」（ドキュメンタリーディレクション賞）なども連続受賞。2000年12月、中国で学術・文化の分野で優れた功績を挙げた全世界の華人10名に贈られる「2000年中華文化人賞」を受賞。

特別研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

〈解説〉

十七帖は、王羲之が書いた草書体の消息で唐の太宗が蒐集した羲之の真蹟の中、消息を29通を集めて一巻としたもの。書き出しの「十七帖…」からこの名がついた。

掲載の上野本は、清の姜宸英が旧蔵し、羅振玉が日本にもたらして上野氏有竹斎に入ったのでこの名がある。しかし、今は京都国立博物館蔵となる。

計與足下別。廿六年於今。雖時書問。不解閼懷。省足下先後二書。但增歎慨。頃積雪凝寒。五十年中所無。想頃如

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)



特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

用紙

半紙普通判（料紙可）

〈たて長に使用〉

※別紙を裁断して貼付も可。

・半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。

(押印のみ可)

〈解説〉

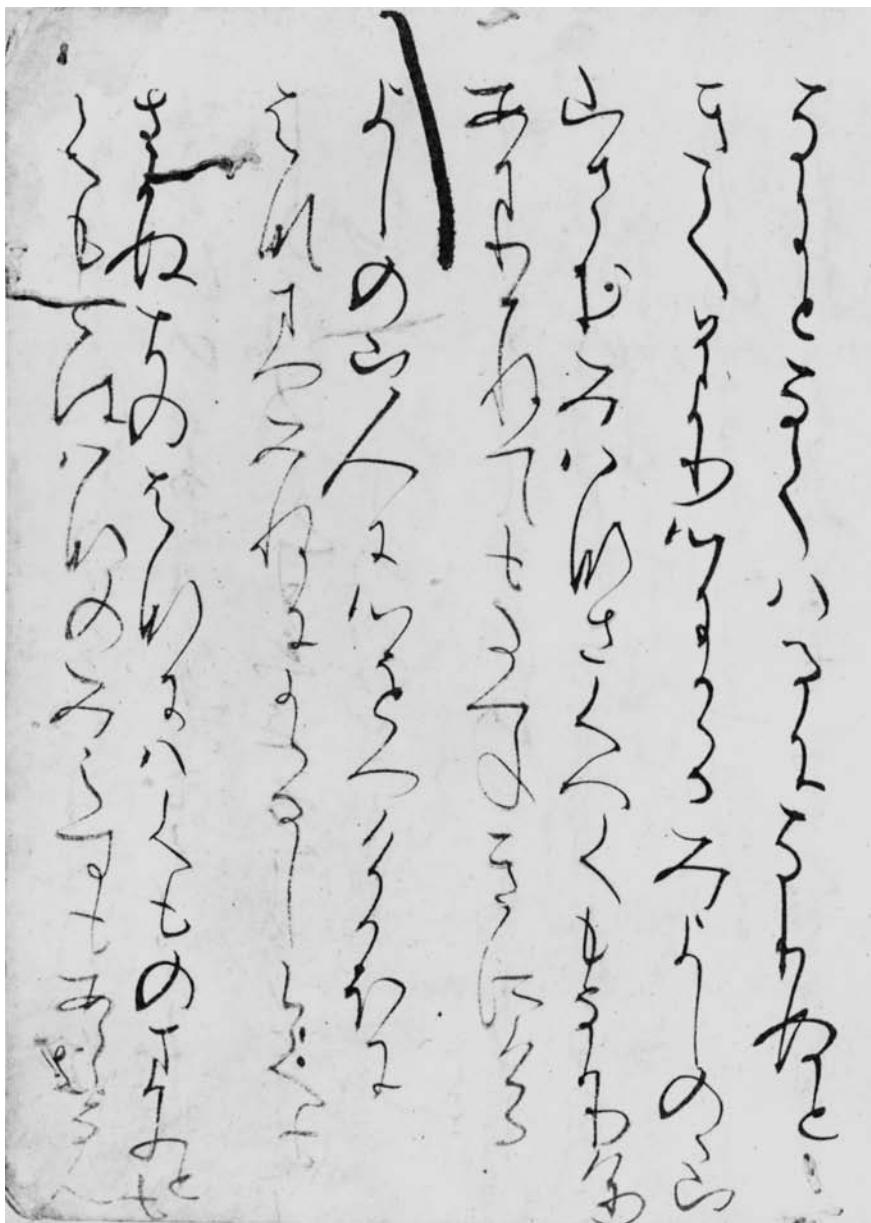
西行の家集（個人の和歌を集めたもの）の一つ。西行の約二千首の和歌のうち、すぐれた三六〇首を選び、他人の歌も一四首加え、花・月・恋・雑上・

雜下としている。

装丁は升型（約16・5cm）の綴葉装の冊子本で、料紙は素紙（加工のしない紙）である。

筆者は、古来より西行と伝えられたが、西行の自筆である「一品経和歌懷紙」と比べて真跡とは認められず、しかも、書風の違いから三人の寄合書とされている。

今回掲載部分は、本書の巻頭で、この内題は、藤原俊成の筆跡といわれている。従って続く歌のかな部分も俊成筆と推測できるが断定しがたく、おそらく俊成の書風に影響を受けた人の筆跡と考えられている。この書風を、本書の第一種と呼んでいる。



(原寸大)

なにとなくはるになりぬと
きく日より心にかゝるみよしのゝ山
山さむみはなさくべくもなかりけり
あまりかねてもたづねきにける

よしの山人に心をつけがほに
はなまつみねにかゝるしらくも
さかぬまのはなにはくのまがふとも
くもとははなのみえずにもあらなん

注=かな研究部競書作品は、
上の古筆の掲載部分より歌一
首以上を書く。（全臨も可）

習い方解説 (四)

辻元大雲

和神養素
(王右軍)
(神を和げ素を養う)

羊毫細長鋒筆を使用、軽快なり
ズムで明るい表現を試みました。

「和神」は精神を柔らかくし、

「素養」はまことを養うこと。素
はまこと、まごころを意味します。

王羲之の言葉です。

今回は草書を主として表現して
みました。懐素の千金帖あたりが
頭をかすめております。羊毫の細
長鋒筆など普段中鋒筆や兼毫筆を

使用されている方には少し難しい
かもしませんが、勉強のつもり
でちょっと筆など取り替えてみて
はいかがでしょうか。半紙に使用
する位の筆なら、手頃な価格のも
のがあります。
楽しみながら毎月の競書に応募
する、書体や書風の違いを勉強し、
更に用具も少し替えて表現の幅を
広げてみてはいかがでしょう。

和神養素 よみ(神を和げ素を養う) 王右軍

書体=自由



習い方解説 (四)

飯田春香

霜松常青
(趙自厲)
(霜
松
常
に
青
し)



楷書の場合には剛毫筆(馬、鹿、狼などの毛)が適しているでしょう。弾力が出やすいので強韌さが出来ますし、筆勢を生かすことができます。

「霜」は雨かんむりを広くし、下部の目の二画目は背勢にします。「松」の木へんは上部を長くしきりっとさせましょう。

「常」一画目と最終画で中心を決めましょう。
「青」横画が多いので間延びしないよう間隔に注意して下さい。

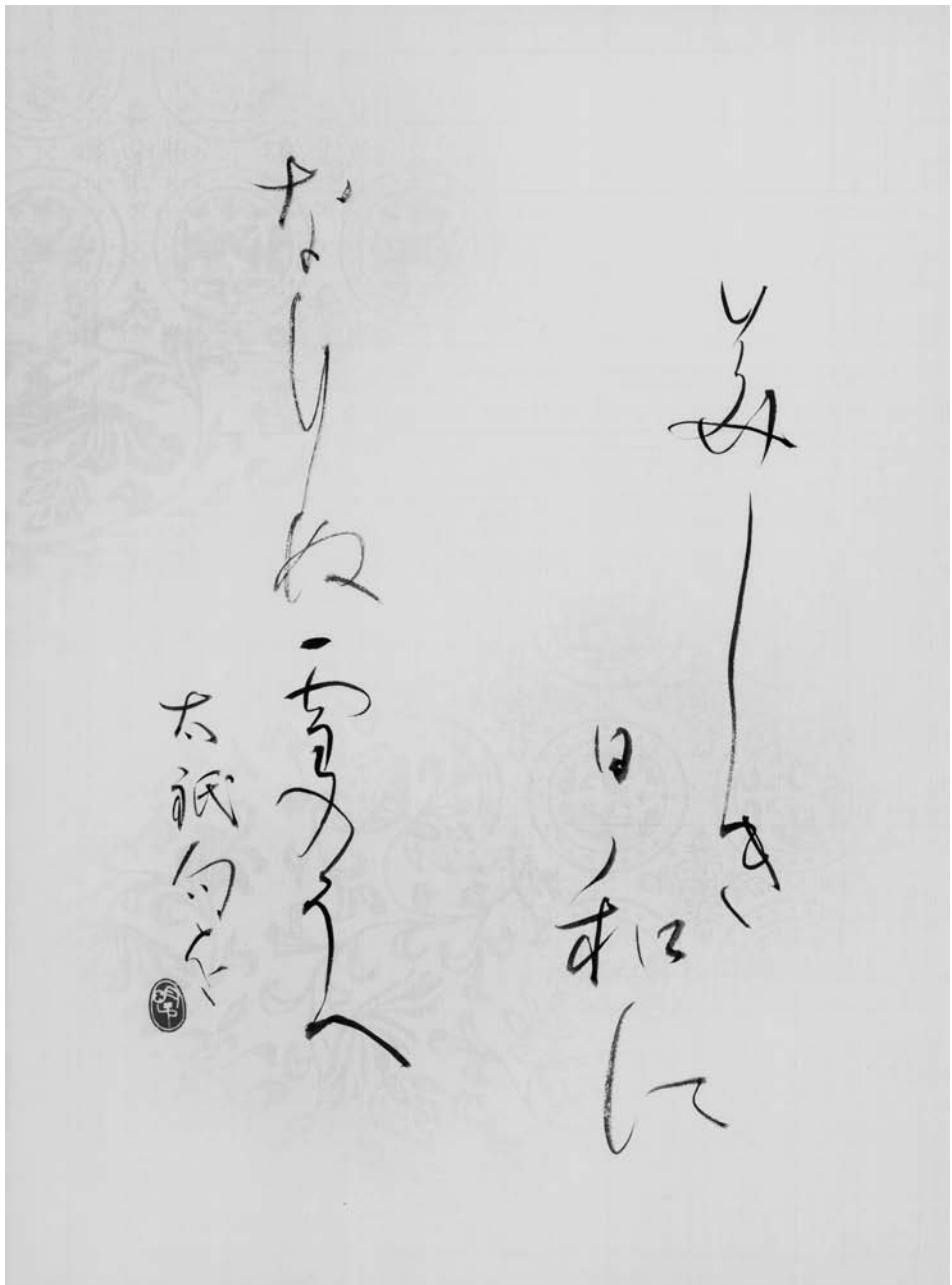
かな規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書

習い方解説 (四)

美しい日和になりぬ雪の上
(炭太祇)

石井明子



創作

かな作品は読めないと言われる
ことがよくあります。変体がなを
学ぶとそのことは殆ど解決できま
す。しかし、学習しない人に読め
ないのは、時代に合わないと考え
る人がいます。一部の趣味人のも
のとしてしか存在できないことが
変だと思う人がいます。

そこで今回は、読み易く、しか
もかな作品として成り立つことを
目標に構成してみました。結果、
かなを学んでいる者としては、一
抹の物足りなさが残りました。

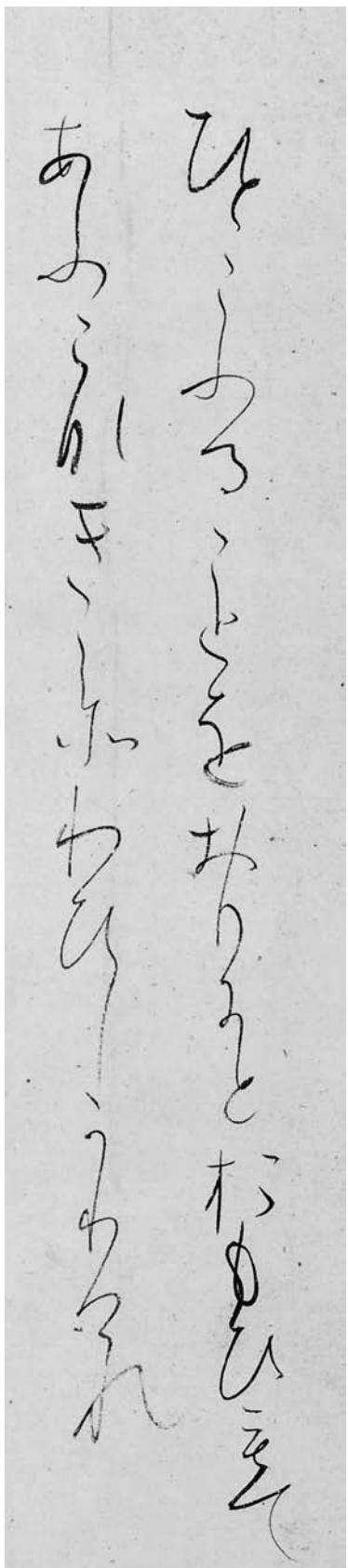
今のところ、私は変体がなの力
なしの現代がな作品は完成度が低
くなると感じています。あまり難
しい作品は好みませんが、美しさ、
優しさ、愛らしさのかなを心がけ
たいのです。炭太祇は禅生活も体
験した江戸中期の俳人です。

よみ方 美しき日和になりぬ雪のうへ 太祇句を

かな規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方

ひとこぶることをおも(无)に(尔)とお(於)もひも(毛)て
あぶこな(那)きこそ(所)わびしか(可)り(利)け(介)れ

かな条幅規定【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

大辻多希子選書

習い方解説 (一)

大 辻 多 希 子

新しき春のはじ
冬籠てふかたちのままに

(与謝野晶子)



半切に一首の大字は、小字を書

く時と違つて、腕をあげ、鋒先を
紙面に突き立てるよう、力強く

ひきしめた線で書きましょう。

筆先が紙の表面を撫でるような
筆づかいでは強い線は出てきませ
ん。かなは漢字と比べて文字の画
数が少ないので線がなよなよせず
のになります。

創作

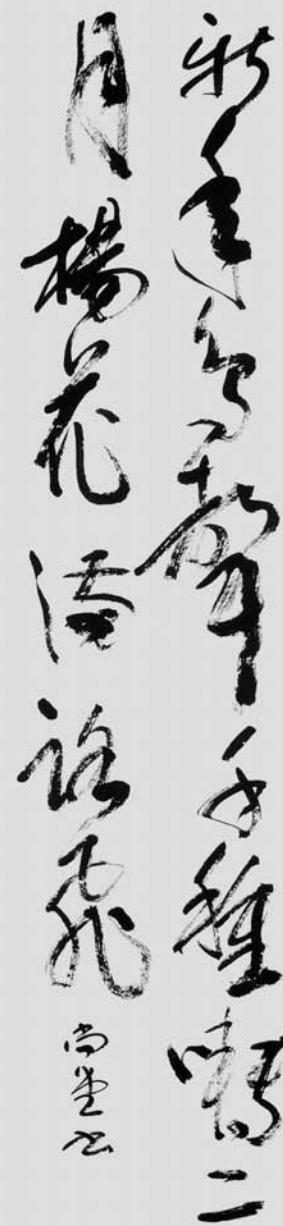
よみ方 新しき(支)は(八)るの初め(免)をよろこび(日)ぬ
冬籠てふか(可)た(多)ち(遷)(の能)ま(万)ま(へ)に(一)ぬ

漢字条幅規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

竹田尚堂選書

習い方解説 (四)

竹田尚堂



新年鳥聲千種轉

二月楊花滿路飛

(新年鳥聲千種轉じ、二月楊花満路に飛ぶ)

庚信「春賦」

書体＝自由

鳥の鳴りや楊花の乱れ飛ぶさまに、春が廻り来る喜びを詠んでるのでしょう。
そんな心情に沿った表現にした
いと考え、自然な用筆を心掛け、
少し振幅を持たせてリズムにのせて筆を運びました。

どのような表現であれ、根底に
勁さを持った練度の高い書線が求
められると考えています。

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小浜大明選書

習い方解説 (四)

小浜大明



何處青山不堪老 時明月巧相隨

大明書

(蘇軾)

書体＝自由

今回から、十四字で二行の学習をします。一行目に八文字、二行目に六文字という構成が一般的です。

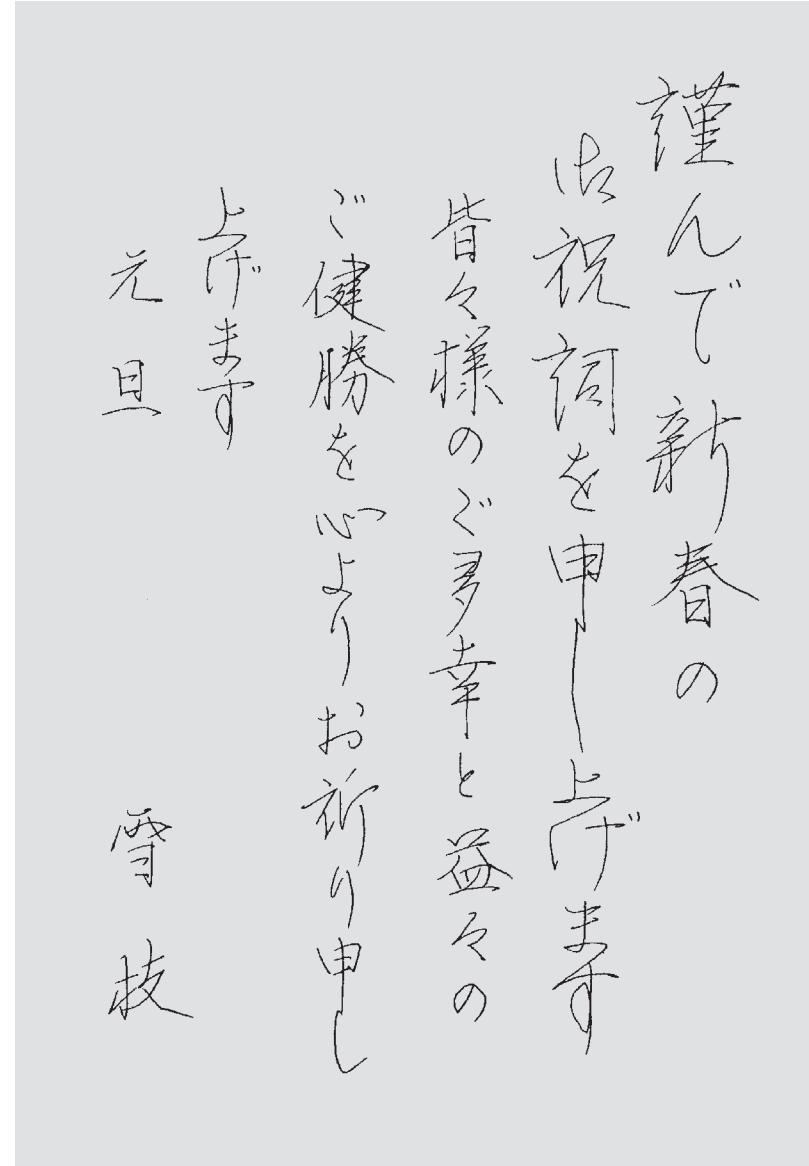
詩の意味は「何れの處の青山も老に堪えざるはない、当時の明月は変わることなく私に伴っている」です。

意連を大切にし、自然な流れを感じるよう表現してください。

何處青山不堪老 時明月巧相隨
(何の処の青山か老に堪へざる。当時の明月巧に相隨う)

習い方解説 (四)

見越雪枝



今回は、新しい年のはじめの挨拶とし、一般的な年賀状を課題としました。最近は送る枚数が多い方は、印刷する事もあると思います。印刷の場合は、何か手書きで一言書き添えるのも、心温まり、嬉しく思うのではないでしょうか。

漢字とかなの交じりで、リズムをとつて書きこみましょう。かなを少し小さめに書くと、一目見た時に流れを感じます。

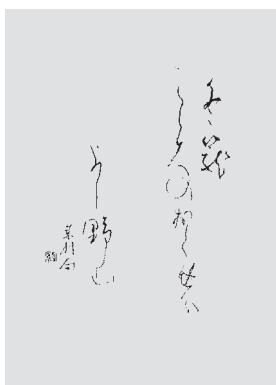
※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

今月の

ホーリー作品 各部総評 No.607

かな部 師範 小川 春彩
句意の把握よく、抑制のきいた表現が落ちつきを齎す。墨量の変化が効果的で格調があり美しい。

◎かな部総評 字粒の小さすぎと淡墨すぎて読みにくいもの多く残念。出品作は明瞭に、しかも紙面は美しく仕上げること。(明子評)



かな条幅部 準師 堀江 幸泉
参考手本に忠実にバランスよく納め連綿や意連も無理がない。この調子でより線を深める研究をした。字組みには文字の形の性質を知ることが大切。(洋子評)



漢字条幅部 師範 東平 索子
着実な校字、深味と没味のある線質、漢碑摩崖の風格を有す。一貫した地道な隸書研究の成果。

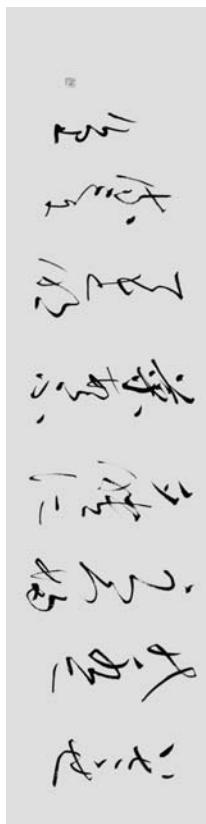


◎漢字条幅部総評 線の表情に情感は込められます。古典を学び線の研究を地道に。筆墨も大切な要因です。(萬城評)



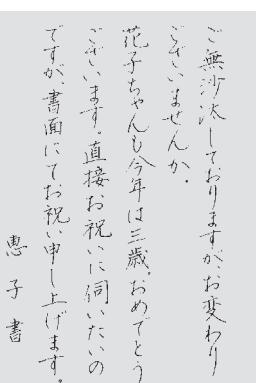
前衛書部 特選 後藤 敬子
和紙を使用し淡墨で渴筆を生かした作で、スケールが大きく余白も美しく魅力ある作。

◎前衛書部総評 作品はバラエティに富み充実した作が多いが、紙、墨色等工夫されたい。(仙草評)



現代詩文書部 特選 井上 静香
視覚に訴える造形芸術として成功している。言葉の表現を考えた空間処理、構成、線質は見事なり。

◎現代詩文書部総評 社中毎に作風が皆同じなのは如何かと思う。自由な発想と表現を。(素雪評)



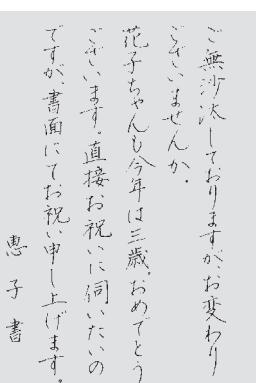
ペン字部 師範 鶴田 恵子
気字大きく、一点一画が丁寧で布置、落款まで一貫性のある清涼感溢れるよい作。益々のご精進を。新春にあたり、古典を研究して一步ずつ前進を。(和楓評)

◎ペン字部総評 全体的に流動美と温雅なよい作品が多くよい傾向です。新春にあたり、古典を研究して一步ずつ前進を。(和楓評)



漢字部 師範 佐藤 初香
渴筆主体で、滋味ある草書表現作。墨の濃さを少し変えてみるのも一考。更なる精進を望む。

◎漢字部総評 全体に小ぶりな表現が目立った。半紙といえど紙面を効果的に使って広がりある作を期待したい。(大雲評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

臨書(大雲) 神谷雲卿

「蘇孝慈墓誌銘」

文安	縣開	國公邑一千五	百戶開	幕府而
署賢	垂徽	章而發号峻	田井之賦展車	
之容	宣政	元年授前侍伯	大夫其年授右	
右侍	伯中	大夫其年周宣帝	大夫人授右	雲卿臨
待伯	中大	夫其年周宣帝	大夫人授右	
中大	夫其年周宣帝	大夫人授右	大夫人授右	
大	夫其年周宣帝	大夫人授右	大夫人授右	

137×35cm

神谷雲卿臨

現代詩文書

(游水)

荒川空華

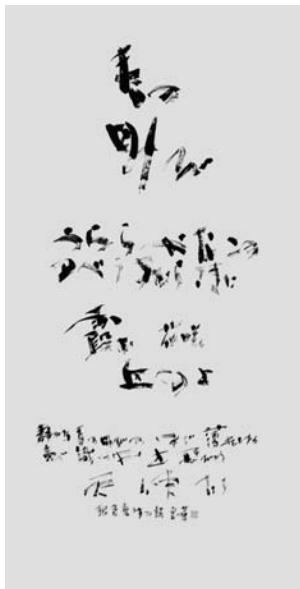
「銀色夏生の詩」春の叫び

◆体の中からほとばしるよう、詩の流れに強弱つけて表現されている。その為判読しにくい所も感じた。(倫子評)

◆やや意匠的な構成だが渴筆に終始したためか街いは感じない。詩文を味わっての表現は現詩の醍醐味。(洋子評)

◆銀色夏生の詩と一体になって生まれた構成かと思う。波みのある線が甘さを救っている。(翠風評)

◆やや判読しづらい表現ではあるが構成の面白さ、鮮々しさに魅かれる。潤渴の変化がリズムを生む。(大雲評)



135×70cm

荒川空華書

◆墓誌銘の特長をよくとらえ、着実な臨書態度がうかがえる。茶色の掛線も異和感なく安定する。(大雲評)

(洋子評)

◆沈着な取り組み方全体のまとめに響いてゆく感、欲をいえば迫力が乏しい感がするが筆のサイズか筆者の思遣りが見られて成功した。(翠風評)

(洋子評)



48×173cm

前衛書

(行徳)

「喜」

◆まづ浮遊感が楽しい。やや軽いかとも思うが、ヒラヒラと舞うようなタッチが独特。印の位置は?(洋子評)

◆書の線を感じる作品。軽快な舞踏を想った。墨のにじみに水を感じ潤いのある作品と思う。(翠風評)

◆軽快なリズムで右から左へ展開する。もう少し鋭さや厳しさが感じられれば更にと思う。印寄り過ぎか。(大雲評)

◆ふんわりとし雰囲気人柄そのものと云つた感。鋭い所も欲しいがそこは、表現するのに勇気がいる。(倫子評)



浅見由紀子書

(墨宣)

「吳偉業詩」 小林翠芳



137×35cm

小林翠芳書

現代詩文書

(もくせい)

西川藤象

70×136cm



西川藤象書

- ◆句の魅力と相俟って控え目な動きを感じる。大胆な潤渴など加えれば更に別の魅力が出たかも。
- ◆身体ごとリズムをかけ、一貫したダイナミックさが魅力。反面、少々調子が同一になりすぎたか……。(洋子評)

- ◆躍動的な筆の動き、やや廻転の時に安定した構成で見えるが性質の違う筆を一本使っての表現なのか。
 - ◆重厚なねばり強い線質をベースに、安定した構成で見せる。筆端の切れがやや鈍く、更に努力を。
- (大雲評)
(倫子評)



山崎 恵書

150×45cm

- ◆かすれによる面と艶やかな黒、訴えたい一期一会の真情が伝わる作品。動きとエネルギーを感じます。
 - ◆ダイナミックなタッチで充実感ある作。やや粗さが目立つが、それが魅力を生む。今後を期待する。
- (大雲評)
(洋子評)

- ◆体全体を使って筆と共に動いて行くその姿勢が目に浮かぶよう。かすれも一つの線として引き立つ感。
 - ◆筆の動きを追うと摩訶不思議な気分。特に渴筆が面白い。書画生き物だということを感じた作品です。
- (倫子評)
(翠風評)

前衛書 (青蓮) 山崎 恵
「還」

86点

総出品点数

86点

総出品点数

◆心憎いほどの明清調作品である。後半の「廊」「人」などの解放感にエクスターを感じる。

(翠風評)

◆練達の作。半折ながらリズムよく、運筆の流れ爽やかである。行末や軽すぎたか。更に精進を。

(大雲評)

◆かなりよくまとまって充実した作品です。技術もさることながらバランスしたりズムは颯爽とする。

(洋子評)

◆流れるような筆の運び、強弱のつけ方で紙面が揺れる感じで纏められている。墨の含ませ方片寄る感あり。

(倫子評)

◆弱のつけ方で紙面が揺れる感じで纏められている。墨の含ませ方片寄る感あり。

(倫子評)

創作の部	前衛	24点
漢字	—	12点
かな	—	3点
現代	—	23点
篆刻	—	2点

臨書の部	漢字	21点
かな	—	1点

選評 竹田尚堂

今月のホープ作品

國公邑開縣安

川嶋里美

確実な用筆の点画。伸びやかさの中に骨力を藏した高質の書線。確かに字形の捉え方。これによって過不足なく原帖の趣が表現されています。密度の高い学書姿勢が垣間見えます。文の句切りへの考慮あれば更によい。

◎漢字研究部総評

原帖が明確であるだけに、字形、線質など

着実な作が多数でした。一方、もう少し丁寧な学書が望まれる作も多数ありました。原帖の清さ、歯切れよさを捉えるには起筆、收筆の転折の用筆を手に入れることができます。その形ができるにはどういう用筆が為されます。かを、自分の眼で見付け納得することができます。

開國公文安縣

瀛州文安縣開國公邑一千五百戶開幕府而署賢垂徽章而號号峻田井之賦展車服之宜宣政元年授前侍伯中大夫其年周宣帝授右少司衛

太夫其侍伯中

田井之賦展車服之容宣政元年授前侍伯中大夫其年授右侍伯知臨

署賢文子

夏木端
太由直喜美子夫子子政元

元年授前侍伯授前

垂徽章而發号峻田井之賦展車服之容宣政元年授前

忠子臨

節子臨

有津口

賢垂徽章年授

車服之容政元年授夫右都美臨

良子臨

杜香臨

夏文知太由直喜美子夫子子政元

其年授宣政元年授

前侍伯中大夫其年授右

元年授

良子臨

侍伯中大夫其年授前

賢垂徽章年授

峻田井之賦展車服之宣

忠子臨

杜香臨

英翠子

賢垂徽章年授

峻田井之賦展車服之宣

良子臨

杜香臨

高嵐子

賢垂徽章年授

峻田井之賦展車服之宣

良子臨

杜香臨

高嵐子

有節麗純恒皓

草桂蕙郁英翠

蘭良良郁嵐高

舟子子子泉柏

津子流平峰蓉

秋香子美子

高嵐子

高嵐子

かな研究部
(粘葉本和漢朗詠集)

選評 田村澄子

今月のホープ作品

あらわすやうのあわせのね
うけよふるよやうすて
ひきよるよめくよあらわす
おもよれよめくよあらわす
おもよれよめくよあらわす

橋本紅霞

端正な美しさを有し、真面目ですなおな作品、す
い込まれるような作品、古典をよく勉強してますね、
見事な出来ばえです。
◎かな研究部総評
全体的に高野切第三種の勉強しての方々が多くみ
られました、ただ余り薄い半紙を使用すると、力が
入ません、ロール紙などがよろしいと、一考を。

かな研究部成績表

美南か
知つ
枝汀え

陽み愛
な
一江石

彩桂優
香香子

信智清
子広耀

艸石A大うも
玄習I阪るく
秀
植犬伊池飯青
木飼藤田高木
如道寿秋幹啓
風石子漢生子

紅こ澄彩秀こ英彩英や千A高広や上竜石玉英蘭秀紅大玉
瑤だ春水こ峰峰ま葉I崎島ま泉泉留松峰鼎水瑠雲松
須大宇伊寺加片岸吉田平藤新川秦濱浅松小佐川門鈴礪橋本
田石田藤澤藤野田瀬玉山村井本藤田川丸川藤崎脇木貝本
川
香星春敏悟翠美東彩哲彩昌知南つ陽な愛彩桂優信智清紅霞
舟祥華子子陽代子南子華子枝汀え一江石香香子子広耀霞

特選

坪京昌五紅調千大澄や洞は遊小正五秀竜八竜蒼高大蘭大蓮D椿清A東
和橋苑葉苑布葉雲春ま書せ雲汀華葉水泉街泉陽崎雲鼎雲島紅Y胡翠I
若吉吉森茂武松堀深平濱長西永永都高高佐櫻後込小高小黒熊菊河加岡江生薄
菜田田木藤重切澤田田谷瀬井丸橋々田藤山峰武坂柳谷池合藤田田方由
矩佑翠瞳真蕙翠幸佳美竹久彩宏ど初雅町龍良恵加美玄竹葉蘭進敬夜夫子綠
子子綾子蘭曉景雲月和雪子汀枝り京泉華貞泉子子城

松村入
阿久澤隆華
竜英樹春顧生弘硯う昆松石硯竹N昌澄稻英竜大樹詢四幕生大竹千大苑伏春澄秀高高こ昭石英澄高竜千澄日誠華誠正生上千京
島淡柴篠穴鹿佐櫻坂坂齋斎後近工木北岸河神貝小小冲小大大梅海宇内上岩岩今井井市板石石新荒足東
木木司田水田谷原倉田藤々田本巻藤藤藤藤原村又本岡谷實野熊川森野田原野田原瀬上村閑野出川垣崎川井井立
加由由世佳木由美寺喜佐元惠知
利多咏代起和美翠楊和志代雅智み麗翠美早知喜淑香尚惠春秋星雲窓加代和輝喜礼和虹華皓岳祥都貴梨玉美順青甘津翠玲万花子
子美艸子子

こ明も華佐澄玉竜英春硯こ玉
遷だ漠く祥倉春川泉峰汀水だ川
189吉吉吉山山柳谷森宮宮湊三丸真松前本堀細北船藤藤藤深廣平日原林萩西中中富津近田田田田田高高高高
名野田種崎口堀知山野澤川鳴尾島花鳥島田川江村條木木井井堀地山比原岡島澤田池丸原野中中口橋橋野司井
氏千裕妃タ登か理喜ふ
彩鶴藤桜政美龍龍津草洋美敏昌ヶ琴律麗代美魯幸貴晴悦千松晴智清美つ湖京玉椿悦豊雅澄恵柳貞恵可美蒼み賢幸杏小
祥子玉江毅翠子博峰枝秋子子子ミ舟子子子雪春泉子子波啓子子洗幸子舟子華乃子作子恵子子芳子子三枝子子雲苑華桜秋

書

展

『被災から立ち上がった作家展を終えて』

亀井 勤

震災後まもなくの4月に立ち上げた「みんな一書」プロジェクト。当初、7人ではじめた小さな運動が10月、仙台のおかやギャラリーに於ける「被災から立ち上がった作家展」で一つの区切りがつきました。ポストカード販売、チャリティーオークション、そして書籍「和顔愛語」出版。今振り返ると随分と強引で減茶苦茶な事をしてきました。本当にありがとうございました。

とうございます。

仙台での展示には、辻元大雲理事長及び千葉蒼玄事務局長までおいで頂きました。300名を超える予想以上の来場者に私たちもビックリしたとともに、微力ながらも被災地の業者の支援や書道界活性化に貢献できたのではと安堵しています。

しかし、復興はまだまだこれからです。みんな一書・震災復興プロジェクトは新たなステージに進むべく、次の企画を模索しています。これからも変わらぬご協力をお願い致します。

▲おかやギャラリー出品者(50音順)▽

展示風景



平成24年2月9日～15日於・銀座ギャラリー
☆今後の活動

青蓮 大町菜円 岡崎翠園 尾形澄神 阿部綠玲 出原悦柳 大沼樵峰 大町
小野寺三枝 亀井勤 亀井碧峰 熊谷青山 後藤歩 後藤法明 小松幽光 佐々
木青霞 佐藤奎山 鈴木智翠 鈴木英晴 玉井瑠鼎 畠中成山 渡辺一夢

ラリー（銀座地下道壁面）「みんな一書」書初書道展を開催します。老若男女、書道団体、会派を超えて広く書道作品を募集します。

詳しくは <http://www.shojin.net/>
※お問い合わせ先
書ギャラリー親かめ子かめ 亀井 勤
〒981-3203 仙台市泉区高森
7-36-5 電話 022-378-9916
q8@oyakamekokame.com



中央書壇作品展示風景

書蓮会展を拝見して

工藤山房

尾形澄神先生が仙台でご指導されている書蓮会の第一回目の展覧会を拝見させていただきました。

9月に郷里八戸で、師・田中扇溪、柳町祥香「二人展」を尾形先生に観ていただき、感謝と、何かを得たいと

いう思いで、青森から「はやて」に乗りました。11月末、太平洋側の陽射しが眩しく春のようでした。

自由な創作60点

青葉区で書蓮会作品展

県内の書道グループ「書蓮会」(水戸光男会長)が初めての作品展を仙台市青葉区一番町、東北電力グリーンラザ「ギャラリーNORTHERN」で開いている。12月4日まで。

同会は今年6月に亡くなった書家、尾形鼎山氏に指導を受けた書道愛好家ら約100人が2年前に結成。尾形氏の子息毎日書道展審査員の澄神氏

鑑を積まれた方々なので、ずらりと並んだ小品は、どれも品のある作品で、長く書に親しまれてきた時間の経過を感じました。公募展の大きな作品や競書作品とは一味違った小品の楽しげが、俳句等の詩文書や一字書、刻字などによつて造形、筆力、呼吸を感じさせながら「生きている」メッセージを発していました。

いつか、そんな表現にたどりつけるよう書の鑑鑑、人としての学びを深めなくては、と思い新たにするひと時でした。

よう書の鑑鑑、人としての学びを深めなくては、と思い新たにするひと時でした。

書蓮会の前身は、澄神先生の父上・鼎山先生が長年指導された社会保険センターのカルチャースタジオです。

月1回に展示会を開く予定だったが、東日本大震災のため8ヶ月遅れの開催となりました。展示しているのは60点。「命」「春風にふかれて」など、身近で分かりやすい作品が多い。顧問の尾形氏は「古典、古筆を学びながら、自由な創作を心がけている。作品の幅も広い」と語っています。

書藝苑」をもとに研修会を開催する。毎年、青葉区で開催される「書藝苑」をもとに研修会を開催する。

